

入院すると **せん妄** が起こることがあります

① **せん妄とは = 脳の機能の乱れ**

病気(脱水、感染、貧血など)
手術、薬物
痛みや不眠
点滴、安静、絶食
急な環境の変化

身体に何らかの負担が
かかった時に生じる
脳の機能の乱れ



- ② **せん妄は、一般の総合病院に入院している方の 20~30%にみられる症状です。多くの場合、一時的なもので、大半は身体の回復に伴って改善します。**
以下のような症状は、**急に生じることが多く、夜になると激しくなる特徴**があります。

③ **せん妄のときは、このような変化や特徴があります。**

意識がくもってぼんやりする

- ・ ぼんやりとしている、目がうつろ

話のつじつまが合わない

- ・ 昔のことを今のことのよう
に話す
- ・ 話がまわりくどく、まとまらない



場所や時間の感覚が鈍くなる

- ・ 自分が今いる場所がどこかわからない、
病院を家と間違える
- ・ 「帰る」と言い出す
- ・ 今日が何月何日かわからない
- ・ 昼と夜の区別がつかない



怒りっぽくなる

- ・ 普段の様子からは考えられない口調になる
- ・ 暴言、時に暴力をふるう

落ち着きがない

- ・ 点滴のルート類を触ったり、ベッドから何度も起き上がろうとしたりを繰り返す
- ・ 視線が合わず、そわそわして落ち着かない

幻覚がある

- ・ 実際にはないもの(虫、動物など)が見える
- ・ 実際には聞こえないもの(音楽)が聞こえる
- ・ あり得ないことを言う

治療していることを忘れて、身体についているルート類を抜いてしまう

転倒・転落の危険がある



夜、眠れない / 昼夜逆転

注:すべての方に見られるわけではありません

- ④ **せん妄は、意識障害の一つで、ぼけてしまったとか、精神症状ではありません。**
適切な治療を行えば、多くの患者さんで症状が改善すると言われています。

せん妄の治療・ケアについて

せん妄は、身体への負担を原因とする脳の機能の乱れであるため、
負担となった体の問題を取り除くことが治療の基本となります

これに

- 患者さんが安心できるような**環境の調整**
- 脳の機能の乱れを改善する**薬の調整** を行っていきます。

このような対策を、**専門のチーム**で検討し、治療させていただくことができます

時間の感覚やこれまでの日課、趣味を 入院生活に取り入れます

- なじみのある物(眼鏡、食器、パジャマ、まくら等)を使用します。
- 時計やカレンダーを見えるところに置き、日付や時間を何気なく会話の中に取り入れます。
「入院して○日になるね」
「手術して○日経ったね」など
- 家族の写真を見えるところに置き会話に取り入れます。



ご家族に手伝っていただきたいこと

- ご家族がそばにいて、安心して落ち着かれることがあります。
- せん妄時のことは覚えておられないことも多いので、後からその時の様子を話題にせず、辛かった気持ちを共有してください。
- つじつまの合わないお話があっても、無理にただす必要はありません。
- いつもどおりの落ち着いた言葉がけをお願いします。
- 症状が強くなる夜間は、ご家族に付き添いをお願いすることもありますのでご協力をお願いいたします。



環境を整え、睡眠、覚醒のリズムを整えます

- 昼間はブラインドを開けて日光を取り入れ、明るい環境に、夜は静かで暗すぎない環境(スポット照明)に整えます。
- 昼間、適度な運動や趣味などができるように整えます。
- **リハビリや院内デイケア**に参加し活動のリズムを整えます。



安全が守れるよう、対策を考えます

- 刃物(ナイフ、はさみ、つめきり)、ライターなどを患者さんの周りに置かないようにします。
- 転倒・転落予防のため、ベッドを低くする、ベッド柵をつけるなど、ベッドサイドの環境を整えます。
- 生命の安全を守るために、センサー設置や安全ベルトなどの使用を考慮します。



お薬について

- 数多くのデータから、安定剤(向精神薬)などが、せん妄の予防・治療に有効とされていますので使用することがあります。
- 薬の副作用としては、「ねむけが残る」、「飲み込みにくさ」、「ふらつき」、「心電図異常など」があります。
- 効き方には個人差がありますので、副作用に注意を払いながら最大限の効果が得られるよう、最少量・短期間の使用に限定しています。
- 必要に応じて、採血・心電図検査などで副作用のチェック・対応をします。

